

Iwate Prefectural Hanamaki Minami Senior High School

岩手県立花巻南高等学校



同窓会報 2016



〔発行〕岩手県立花巻南高等学校同窓会 事務局
〒025-0053 岩手県花巻市中北万丁目288番1
TEL(0198)23-4236 FAX(0198)23-4365
URL <http://www2.iwate-ed.jp/hks-h/>
印刷 (株)菊忠印刷



ご挨拶

同窓会長 瓜生 祐子
(高女33回生)

新しい年にあたり、同窓生の皆様方をはじめ関係各位のご多幸をお祈り申し上げます。

この「会報」でのご挨拶も今回で15回位になりますが、よくぞ重責に耐えて続けてこれたものと、驚いております。これも偏りに会員の皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、その長期間での役割で自分としてもいろいろと学ぶこととの多い日々でもあり、会得したこともありました。それは「友情」・「信頼」・「団結」など枚挙にいとまがありません。

ことにも、去る二〇一一年(平成23年)の母校の創立百周年記念事業が計画通り、大成功に終ることが出来たことは、他ならぬ母校愛溢れる会員の団結で汗を流したことが成功の要因になったものと信じています。あの日の感激は5年を経過した現在も語りつがれている程の活動でした。しかし一方では困難なことも多々ありました。関連事

業の一つである「同窓生名簿」作成についてたいへんなプーイングがありました。現代の個人情報保護法に基づいてのことであり、当時の学校長の菊池豊先生・総務の米田保弘先生、そして自分も対応に追われた事柄は、今は昔のことになりましたし、よき思い出にもなりました。そのプレッシャーをはねのけ、団結の力でがんばった寄付金集めは、わが花巻南高校同窓会魂のなせる業であり、常にこの会の誇りとも思っています。又前出の菊池豊先生は「日本一の同窓会」と激励して下さいますので、更に前進したいものと考えます。

ふりかえってみますと、まだまだ活動の想い出は多くありますが、少しだけ記してみます。

○全国高校駅伝(女子)大会で都大路での声援を5回。

○旧校地にある開校記念樹の姉妹柳の命を二度にわたり守ったこと。

○東日本大震災で被災した大槌への慰問旅行。

今後は若い世代の会員が力を合せて新しいころみをしてほしいと念じています。そして同窓会の発展と永続性にかけても、一層のご協力をお願い致します。

加えて、最近浮上した問題についてふれてみたいと思います。

すでに皆様方もご承知のことでしょうが、去る1月13日の新聞紙上に掲載された「県立高校再編案」という記事です。これは対岸の火事に非ずでした。

つまり母校の一学級減の報道に心を痛めました。よく落ち着いて読んでみたところ、まだ決定ではないとのことでした。そして地元の学校関係者から十分意見を聞き、云々と書いてあり少しはホッとしました。そこで今後の動向に注視しその対策で話し合うこともあるかも思っています。百年の歴史と伝統に輝く母校の存続にお力添えをお願い申し上げる次第です。

下記は平成28年の総会のご案内です。お友達をお誘い合せの上ご出席下さることを願ひしながら挨拶を結びます。

ご案内

平成28年度岩手県立花巻南高等学校 同窓会総会

- 日時 平成28年7月10日(日)午前10時20分より
- 会場 花巻温泉 ホテル千秋閣「グレートホール瑞雲」
※総会終了後、懇親会を行います。
- 会費 5,000円 是非お誘い合わせの上、ご参加ください。



27年度の様子

28年度は岩泉高校 中野七頭舞に出演交渉中!!



いあいあつし

校長 遠藤 可奈子

同窓生の皆様には日頃から多大なるご支援を賜っておりますことに、心からお礼申し上げます。

生徒達には、伝統ある花巻南高校生としての誇りを胸に精進を重ね、輝かしい未来に向かって力強く進んでほしいと願っています。

さて、伝統校のよさは数多くありますが、その一つは母校愛溢れる多くの先輩方に見守っていただけること、そして先輩方を身近な手本として仰ぎつつ高校生活を送れることだと思います。様々な分野で活躍しておられる先輩方の姿は生徒達の成長の糧となります。同窓でなくとも手本は求められますが、母校という繋がりにはやはり格別です。

母校と言えば、この三、四年、母校が結ぶ繋がりについて考える機会が何度かありました。十数年の間に教えた比較的若い卒業生が集まる席に呼ばれることが続き、忙しい年代の人々からの招待にやや不思議な思いを抱いて参加したのです。

共感し、励まし合う時間はあっという間に過ぎていきました。

場所も仕事も違うけど、それぞれ自分が選んだ道で頑張るべ。

お互い、自分が置かれた場所で頑張ればいんだよね。

うん、また会おうね。

震災のあと、無我夢中の時期を過ぎたら、高校の仲間に出会いたくなかったです。銀行に勤務する二十代後半の卒業生は、「震災の時、沿岸の支店で外回りをしていた津波に追いかけられ、側にいた人と一緒に必死で逃げた」と語りました。東京で働くその同級生は、「震災以来、東京になんかいていいのかわからない、という思いが離れなくて」と打ち明けてくれました。一閃で教えた卒業生達でしたが、多くは故郷を離れて様々な土地で社会人となっていました。それぞれ自分の震災体験を語り、あるいは故郷を遠く離れて震災を体験しなかった自分の生活を語っていました。同じ学び舎で過ごした仲間ならではの温かい一体感の中で、互いの思いを受け止め、

母校の繋がりに癒され、新たな思いで自分の場所に帰っていく若い社会人達の姿を見ながら、私は深く心打たれました。母校の繋がりとはい、何かあったら帰っていきける場所であり、そして明日からまた頑張ろうと決意させてくれる何かなのでしよう。

生徒達は高校生活に一生懸命で、母校について深く考える余裕はないかもしれません。そもそも中にいる時は全体像が見えないのです。しかし、卒業して外に出た瞬間から、母校は温かく頼もしく文字通り母なる存在として、若い卒業生達の拠となるに違いないと思います。どうぞよろしくお願いたします。

平成27年度 同窓会総会の様子

今年度 同窓会役員

副会長

小瀬川 陽 子 (南高 5回生)

佐藤 貴 子 (南高 13回生)

常任理事

菅 沼 ヒ デ (高女 30回生)

高橋 昭 三 (南高 2回生)

千葉 金 吾 (昭和 35年卒)

葛巻 久美子 (南高 18回生)

監事

石川 映 代 (南高 6回生)

佐藤 洋 子 (南高 14回生)

高橋 睦 子 (南高 25回生)



恩師寄稿

中里四志雄先生
とのことなど

杉田 英一 先生

花巻南高校には平成3年4月から11年3月まで、8年間お世話になった。一教員として8年間は長い方なのだが、この会報を読まれるOG・OBの方々が母校を想ってこられた時間からすればさほどの年数ではない。しかもこのような知識は花南同窓生にとってもはや常識の類だと考えると書くことすらはばかられるが、平成3年4月というのは、校舎が花城から万丁目に移転し、現在の形で男女共学がスタートした年であった。

当時真新しく斬新なデザインの新校舎には、女子校時代からの制服に身を包んだ2・3年生とブレザー姿の1年生とが混在してしていた。その頃まだ20代の私にとっては、清楚で落ち着きがあり、むしろ私より大人を感じさせる2・3年生の女子生徒はともまぶしく感じられる存在ではあったが、当然の如く「共学クラス専従」

が私の使命となった。

この時、今も心に残る生徒との出会いに加えて、私のその後の人生を左右することになったと言っても過言ではない、一人の先生との出会いがあった。花巻南高校野球部初代監督であり、その後5年間共にチーム作り組んでいたのだ、今は亡き中里四志雄先生である。先生と一緒にグラウンドに立ち、志を持って集まった25人の新入部員諸君と向き合いながら過ごした日々は、高校野球の指導者として今も何とかその末席に名を連ねさせていた、いて私の、指導の基礎となっている。



▼平成4年秋季地区予

選時に花巻球場で撮影
(日付を見ると学校の
地区予選突破後の
ものです。左は初代監
督の故・中里四志雄
先生です。)

広大な校地に立派な校舎、

しかし練習場所はまだ「グラウンド」と呼ぶにふさわしいものではなかった。1年生ばかりのチームということで時折マスコミに取材をしていた。このときもあつたが、テレビに映るグラウンドは真っ赤に見えてしまう程粘土質の土に覆われていた。それでも通称「万丁目風」に飛ばされる赤土は、近隣のお宅からの苦情の種ともなった。その中で部員全員が来る日も来る日も整備にあつた。創部とほぼ同時に結成された父母会の方々にも土や砂の準備、外野フェンス（最初はネットだった）やダゲアウトの設置等、ことばでは言い尽くせないほどのお力添えをいただいた。そこには確かに「何かを創っているのだ。」という充実感のようなものがあつたが、中学校を卒業したばかりで幼く、ともすれば3年後の自分の成長した姿に想いをさせることを忘れかけ、部員もいた。そんな時中里先生がこの声をかけ続けていたのを思い出す。

「お前たちは、花巻南高校野球部の石垣になれ。」
勝つて伝統を作ること以上に、これから何年も何年もこ

の学校が、そして野球部が若者の情熱に溢れた場所として受け継がれていくように、その礎を築くことが何より大切なのだということの意味することばは、部員の心にも私の心にも強く響くものであつた。とは言うまでもない。だから、当時の部員が真摯にチーム作りに取り組んだご褒美として得られた、創部2年目での秋季県大会ベスト4進出はもちろんこの上なく嬉しかったが、それ以上に23年ぶりとなる昨

秋の県大会ベスト4が、あの時の部員が築いた石垣の上に建てられた大きな城であるように感じられ、中里四志雄先生との思い出と一緒にしみじみとした喜びをもたらしてくれている。当時を知る野球部OBの諸君も同じ思い出であつてくれると願ひもし、また信じてもいる。そして、県高野連の役員として球場で昨秋の活躍を目にすることのできた私は、現在の選手諸君がこれも現時在職しておられた書道の吉原拓雄（凌雲）先生の手による「花巻南」の文字のかすれを、中里先生が丹念にペンでなぞって完成させたチーム名を胸にあしらったユニフォームで戦つて

くれたことに、強い感慨を覚えた。あれから20年以上が経ち、指導される先生方も変わっていく中でこのユニフォームを残して下さっていることに、この場をお借りして感謝の言葉を伝えたい。あの時がそうであつたように、全校生徒が、そしてOG・OBの方々が、アイボリーのユニフォームに浮かぶ紫紺の「花巻南」の躍動を無心で追いかけて続けた、平成27年の秋であつたことを確信している。



▼平成4年秋季県大会帰

校後に部室前で解散の様子（これも日付を見ると、準決勝で久慈商業に延長13回で敗れた後のものであります。ここに
も故・中里先生は写っています。)

とところで、初年度25名であつた部員は翌年42名、完成年度には56名の大所帯となつた。当初選手の手で組織作りをさせたことの思いから採用していなかった女子マネージャーも、支部を担当する頃には仲間入りすることになり、チームの規模はますます大きくなっていった。その頃はベンチ入りメンバーの決定が大きな悩みの種だつたことを覚えていたが、最初の25名を送り出した翌年、このベンチ入りメンバー決定に関するこんなエピソードがあつた。

ある日、近隣の書店に入つた私は、そこで初代部員の一人に偶然出会つた。軽く挨拶を交わし近況報告を受けた後一度別れを告げ去つていった彼は、その後戻つてきて私にこう言つた。

「先生、俺は高校時代、どんなに苦しい練習も楽しいと思ふことができたけれど、大会前の背番号発表の瞬間だけは、嫌で嫌でたまらなかつた。」
明るく、元気があつてチームのムードメーカーの一人だつた彼は、しかしなかなか他のチームメイトを退けることができず、ベンチ入りは3年間で一度

だけだった。希望に燃えて体育コースに入学したものの、45名中11名が野球部員という初年度メンバーの中で、決してベンチ入りの門は広いものではなかったのである。中里先生と話し合いながら、何とか全員一度はベンチ入りをと腐心したが、結局一人も欠けることなく最後の夏を迎えることになる25人は、全員が「熱球志願」であったが故に、初心者2名を含めて、皆が何度も陰で悔し涙を流した3年間であったことだろうと容易に想像できた。



▼平成10年度春の県大会開会式。(久慈会場、3学年16人の部員で、初めて花巻東高校を破つての県大会出場でした。)

その後も、今のところ最後

の公立甲子園出場校となつて、いる盛岡四高を一步のところまで追いつめた平成6年夏のチームは春先から練習試合で十何連敗を記録したつげなあと、か、何度も辛酸を嘗めさせられた花巻東高校に公式戦で唯一勝たせてもらったのは、部員がたった16名の平成10年春だったなあと、その秋はたった9人で大会に臨んだつげなあと、本当に多くの思い出があり、印象に残っている部員も多い。でも、これ以上誰かのことを書くこととすると「それならアイツのことも書きたい。」とか「先生、オレのことは忘れたのか。」とかなつてしまいそうなのでやめておく。言えることは、くどいようだが今の私の礎となつているのはこの花南野球部での経験だということである。



▼平成8年度入学生、体

育コース1年次の体育祭。(この当時インターハイ前なので、国語科の私が担任しました。)

話は変わるが、当然にも私の基礎となっているのは野球部で経験したことばかりではない。国語科の教員として決して経験豊富とは言えなかつた私にとって、女子校から共学化することによって広がってゆく、生徒諸君の進路希望達成をお手伝いする時間も、かけがえない貴重なものであった。まだ駆け出しでなかなか担任を持たせてもらえなかつた私が、やつこのことで受け持つことのできた平成7年度3年3組との時間も、たった1年であつたものの、非常に濃密な時間として心に残っている。それまでの4年間、担任になれない分「学年全員の担任のつもり」などとバカなことを言いながら過ごしたことも含めて、私の教科指導の源流はそこにあると思つている。

一方で、スポーツの素晴らしさを知る一人として熱望した体育コース担任を3年間務めることができたのも花南時代の大きなエピソードのひとつだ。

もう字数が迫つてきていて思いどおり書くことはできないが、今でも出席番号1番から呼名できる彼らとの3年は、「まだまだ教員生活は続くので、



▼同じく平成8年度入学生、野外活動実習。(いまはなき花巻野生活です。)



▼これも同じく平成8年度入学生修学旅行。左端に留学生の姿も見えます。国際科は海外

研修のため、体育コースの生徒として同行しました。

最高と言いつけることはできないけれど、きつと最高に近い毎日だった」と言つた最後のHRそのままの思い出として、私の心の中にある。ちなみにそれ以降担任として卒業生を出させてもらつていないこともあるが。



▼スキー実習。(1年次だと思えます。これも平成8年度入学生。)

その他国際科との縁も強く、副担任を2年させてもらっただけでなく、ハワイ州の姉妹校、レイレファ高校派遣にも同行させてもらった。数少ない男子生徒諸君と体育の授業を一緒にやつたのもいい思い出。

▼平成6年度、なぜ国際科の生徒とハワイに行くことになつてしまつたときの写真です。



そして話は最初に戻る。中里四志雄先生とのことだ。先生は飲み会の時によく私の教員住宅に泊まった。共学最初の学年の学年長も中里先生だった。だから一緒に修学旅行にも行った。したがつて私のこの文章を懐しく読んでくか、中里先生のこと懐しく思い出してくれていると思う。そういうわけで、亡くなつてもう随分経つてしまつたが、彼を知る皆さんと共に、中里四志雄先生のご冥福をお祈りしつつ筆を置かせてもらう。

定期総会

定期総会に参加して

福岡 秀子
(南高10回生)

平成27年7月12日恒例の花巻南高校同窓会が花巻温泉ホテル千秋閣に大勢の方々のご参加の元、賑々しく開催されました。

ハツラツと年齢を感じさせない瓜生同窓会長の挨拶から始まり来賓の方々からのご祝辞、そして在校生による合唱、同窓生と致しましては熱く、感激する事しきり、暖かい声援と拍手を送らせて頂きました。

私達10回生も最後の当番幹事という事もありまして、30名の方々の参加を頂きました。皆さんをお誘いする時は「最後の当番だから」という合言葉で参加を募りました所、その言葉が響いたのか、あつという間に集まりました。

干支も6回も巡る年齢になると、色々な事で先生になつてる人が多く出

し物も、一時間(いつときま)に決つてしまひました。踊り、フラダンス、合唱でした。練習もせず本番に望みましたが度胸も座つて、オープニングの踊りも先頭を切つて「どんと来い岩手」を炭坑節の振付けで踊りました。

花柄の素敵な半天に助けられ華やかだったし、フラダンスも当日の開催前の時間を利用して廊下で練習をし、同級生で教えてる人が皆の分、衣裳とレイを盛岡からわざわざ持つてきてくれて、我先にと自分に合う物を探して身に付け満足して踊りました。更にレイはお土産に皆で頂いて帰りました。思い出が出来ました。合唱は私達が高校3年生の時に流行した「北上夜曲」と震災の後、皆が心をこめて歌つてた「花は咲く」の2曲でした。高年齢であっても皆で力を合わせて一生懸命歌つた曲は息の合った10回生の団結の強さをしみじみ感じた時間でした。

他の学年の当番の方々

も、素人とは思えない程の素晴らしい踊りを披露してまして久し振りに芸達者な皆さんの演技を堪能しました。

瓜生会長さんが全国的にもこんなに沢山集う同窓会はないと常々おっしゃつていますが、順番に当番幹事を決めた事で参加する方が増えたと本当にいいアイデアを出してくれたなあとつくづく思います。

若い人達の参加が少ないという話もありますが、私達も若い頃は同窓会に参加するのは年を取つてからと思つてましたので、その年になれば考えも変わり、参加するものと思ひます。

同窓会がこの後もずっと盛んであれば、それぞれの学年の方々が集つて更に交流を深め、南高校の同窓生としての絆を深める絶好のチャンスと思ひます。

お蔭様で私達10回生も節目毎に同期会を開催し、交友を深めている所でございます。

最後に花巻南高校の益々のご発展と同窓会のご盛会をご祈念申し上げます。

定期総会に参加して

高橋 久美子
(南高20回生)

もう幾年経つたのでしょ

う…。花巻南高等学校を卒業してから今日まで私も歳を重ね、数えるのが大変なほどになりました。現在のまなび学園が当時は私たちの学び舎であり、勉学に励んだこと(?)や、活気あふれる放課後の運動部と音楽室から漏れ聴こえる素敵な音色たちが合わさりまさに青春のハーモニーのようだったことが今でも思い出されます。私と言えば、バレーボール部に籍を置き、

どちらがボールかわからないような今も変わらぬ丸々とした体でボールを追いかけていました。現校舎に移転されるのはそれからだいぶ時が流れた平成3年になつてからのことです。その後、仕事からみで一度学校を訪問させていただき、校長先生とお話する機会があり、私にとつてうれしい出来事でした。

同窓会へはお誘い有難く

当番幹事の時など何度か出席させていただいております。今回も「平成27年度は当番だよ。」との知らせを受けました。頼りになる同級生の駿河さんが、「余興はこれをやりたい。」と提示してくれましたので、すぐに決定！

私たちの年代は親の介護だったり、孫の世話だったりさらにはまだ現役だったり多忙な日々の中、練習を開始し、はじめは完成形が見えずに弱気だったのが、練習を重ねるうちになんとか形になつていきました。ワイワイにぎやかで楽しい中にも真剣さがあり、その時の私たちはまるで学生の頃に戻つたかのようでした。

当日会場に着くと、同窓会長様のできばきとした指示をはじめ、理事の皆様のお仕事の多さを目の当たりにし、これらのご苦労の上に同窓会が成り立っているのだなど感謝の気持ちでいっぱいになりました。100周年に作られた「花南讃歌」の合唱では私もステージへ。歌詞を受け取り、その親しみやすさに「良い曲だなあ、楽譜があつたら

欲しいなあ。」と思ひました。そしていよいよ私たちの順番。同級生が3演目にそれぞれ分かれての出演です。私の出たのは「白黒ダンス」。衣裳に秘密があり、身につけると一人では自由がきかないためチームワークが大切となり、ユーモラスな動きとなりました。ご覧になられた方々はお楽しみいただけたでしょうか。やり切つて幕が降りると、みんなの息が上がつており「間違えたー！」の声や笑いも。その時の私たちには充実感と達成感がありました。

先輩当番幹事さんたちのシャキシャキとした姿をみて、10年後の当番幹事を務めることが出来るよう健康でいなくちゃねと確認しました。同級生の総会への参加は23名で、一緒に踊った人も踊らなかつた人も、その会場でお別れするのが惜しくなり、カフェに場所を移して昔話に花を咲かせました。そして帰りの時間を気にしながらも現在の私たちの生き方について大いに語り合いました。

同窓会バンザイ！

会員だより

戦後70年にちなんで —高女3年だった頃に—

大村 孝子

(高女29回生)



昭和15年(1940)年、私は花

巻高女の3年生であった。日中戦争も4年目に入り戦時体制はいよいよ強化され、私らも休日返上で日焼けしながら勤労奉仕に励んだものである。その頃私は京城女学校(韓国ソウル市)の孫貞愛さんという方と文通をしていた。当時朝鮮半島は日本の植民地で、孫さんからの手紙は漢字とひらがなの立派な日本語の文章であった。内容は、たとえば(テストが終わった)とか(運動会が楽しみ)などとたわいのないものであったが、

未知の人との交流は私には新鮮な喜びであった。そして親しいやりとりを重ねているうちに私はいつか孫さんが他民族の方であることを忘れていたのである。

ある日、(もつと仲良しになりたいので、あなたを波江さんと呼びたい)と書いて送った。毎日返事を待っていた。しかしいくら待ってもついに返事はこなかった。

戦後、私はある機会に韓国と日本との歴史的な関係を知った。日清・日露戦争のいずれも日本が勝利しているという理由により、明治43年(1910)年、「日韓併合」という法律が作られ、韓国は日本の植民地となったのである。その後は韓国でも日本ふうの教育が行われた、というから孫さんの見事な日本文もたどってみればそこに起因するのである。さらにそれから30年後の昭和14

(1939)年、韓国固有の姓名をすべて日本ふうに変更させる法律が作られ強行された。「創氏改名」である。創氏改名が、かつて私が孫さんを波江さんと呼びたいと書き送り、以来孫さんから音信が絶えた時期と重なっている、と気付いたとき私は創氏改名なんて知らなかった。けれど「姓名」とは国籍や民族を問わずその人個々の全存在をかける魂の故郷であるはずなのに。この歴史的な大きな渦の中で女学生の孫さんはどんなに傷つきどんなに悩まれたことであろうか。

戦後70年、改めて思う。「知る」こと「知らせない」ということについて。私たちは幼時から「日本は世界一の国」と教えられ、そう信じて成長してきた。だが敗戦により世界には多様な価値や文化があると知ったとき、清新な思いに心弾んだことも思い出さず。だから短絡かもしれないが「知る」ための努力と想像力がもう少し働

いていたら世の中はもっと違うものになっていたと思うのだ。もし「都合の悪いことは知らせない」とする風潮があつたとしたら、私たちはその怪しげな風の耳に心すべきではないか、そうでなかったら「戦後70年」の歴史的な意義はどうなるのか。

この情報過多の時代、もし昔の孫貞愛さんの消息が風の便りに流れてきたら。私は過去の非礼を心からお詫びしたいと思う。

合い言葉は 夏の同窓会!

岩 淵 洋子

(南高5回生)

「載ったよ! 載った! 今日岩手日報を見て。」と、同級生の日子さんからメールがあったのは、昨年12月22日の午後でした。早速に岩手日報を取り寄せて見ました。「笑顔集まれ!」の欄の中央に、私達花巻南高等学校

校第5回喜寿の集いの写真が堂々と記載されていまして、どの人も凛として気品のある妙齢の老貴婦人の写真でした。

私達第5回生は27年10月18日に花巻温泉のホテル花巻で「喜寿の集い」を催しました。卒業生は180人程でしたが、当日参加できたのは23名と淋しい限りでした。

しかし、花巻市内ばかりでなく被災地の沿岸をはじめ県内各地から、遠くは首都圏から参加の人も沢山いました。75年という人生の重みは、強く世相を反映する生き方を垣間見る思いでした。若い時から家業を受け継いで会社を経営してい



花巻南高等学校第5回生喜寿の集い=2015年10月

る人、亡くなった夫の後を受け継ぎ会社経営をしている人、趣味が高じてお茶やお花の師匠を楽しみながらやっている人、息子や娘に代り子育てを一身に引き受けている人、晩婚の息子の嫁の世話をする以上にして世話を吾が子以上にしていて、40歳を過ぎても結婚しない息子や娘を嘆いている人、僅か2、3年の間に夫や息子に先

立たれてしまった人……等々、皆重荷を背負いながらも、実に逞しく充実した人生を送っていると感じられるのでした。

また、参加できないかった人達の便りによると、親や夫の介護で自宅をあげる事ができない人もいました。そして、自身が施設に入所していたり、介護を受けていることを家族が知らせる便りもありました。

同期会は正に21世紀の世相そのものと感じ入りました。

懇親会では、これらの重荷を吹き飛ばすべく、よく喋る、よく飲む、よく歌う、よく踊ると75歳のパワーを炸裂させていました。写真で見ると妙齢の老貴婦人とは別の顔がそこにはありました。但し、二次会のカラオケは1時間でお開きとなり、どの部屋の消灯も早かったのです。ここに75歳の分別を見る思いがしました。

翌朝、揃って朝食をとり、食後にお茶のお師匠

のたてた抹茶を頂き解散となりました。帰り際に、皆の口から出た言葉は、「次、何時会える？」

「米寿まで頑張れるかなあ」というものでした。

すると、幹事のH子さん、Y子さんから

「毎年、7月第2日曜日に花巻温泉千秋閣で、花巻南の同窓会があるので、そちらで会いましょう！」

と提案がありました。

「合言葉は夏の同窓会！」の言葉に頷き合いながら、ホテル花巻の玄関を後にしました。

思い出の「姉妹柳」

平野 のぶ子

(南高13回生)

4月の初めにしてはめずらしい程冷たい雨が降った53年前の朝、母に伴なわれ臨んだ入学式。南高の校門の次に目に飛び込んで来たのが「しだれ柳」。何故か今も私の心に生き続けるその柳が

「姉妹柳」と呼ばれていた事は、後に発刊された同窓会記念史を見て知る事になるのですが、その「姉妹柳」が「謙虚な女性の象徴」として我が母校の歩みと共に延々と仰がれて来た事実を、当時の私は知る由も無く、女学校生活を満喫していたのでした。

1年生の文化祭の折、3年生に教えていただいた軽食コーナーの出し物の「ブラマンジュ」。初めて耳にするその呼び名の何とおしゃれな事！味も食感ももちろんビックリポンでした。

同じ1年生の時、毎日一緒に通学していた同級生が突然寄宿舎に入ると言うのです。駅まで歩いて5分なのに「どうして？」と聞くと、憧れの3年生が入舎しているからと言う理由にもビツクリ。その寄宿舎も、私達の卒業と同じくして閉鎖になり、続いて「家ダニ騒動」が話題になる程老朽化した伝統ある校舎が、全面改装のため取り

壊されたのでした。

その後新築された校舎に長女が学び、更に移転新築された校舎には、男女共学の第1期生として次女が入学。母娘3人が同窓でありながら、それぞれ学舎が違ったというのも、南高の長い歴史を感じさせられる思い出です。

そして何より、「姉妹柳」と同じ位に記憶に残っているのが、当時の中條惟信校長先生がご挨拶の折々に話されていた「良妻賢母」。

困気ながら、力を込めて懇々と説かれるそのお言葉が、年を重ねても尚、校長先生の面影と共によみがえって来るのです。「良妻賢母」。私はと言えば、良妻」とは大きな声では言えない気がして、ましてや「賢母」など答えがこわくて娘達に尋ねられませんでした。

それでも毎日を元気に過ごさせていただいている事に感謝しながら、たおやかに、しなやかに、あの「姉妹柳」の如くに、そしていい意味でたたか



現在の校舎に植樹された姉妹柳

かに、これから「今日が良い日」を繰り返して行かれましたら、いつの日か私でも「良妻賢母」になれるしまいかと、古希をむかえてもまだまだ希望の明日を夢見ているのです。

文芸作品

川柳

菅沼 ヒデ

(高女30回生)

自己流に五・七・五を並べただけです。その道に通じた方に問うて下さい。(決して良いものではない)

平穩の

来世を願う

卒寿かな

乱世に

賢治の心

生かされず

友逝きて

次は誰かと

胸さわぎ

イケメンの

ドクター笑顔で

聴診器

顔合わせ

あれ、それ、これと

苦笑い



支部だより

東京支部

副支部長

五内川 里子

(南高14回生)

平成27年度の総会は4月12日、上野精養軒にて開催されました。葉桜となった上野公園は清々しい晴天に恵まれ総会日和でしたが、JRのポイント故障で電車が一時止まるハプニング、岩手からのお客様には影響がなく安堵したのを感じています。

総会準備に当たり、役員会、理事会を開催し、課題である会員数及び総会参加者の増加、支部の活性化を図る、等について検討し、取り組んでまいりました。高齢に伴う退会、若年層の入会、総会参加を願うものの、現実には難しく、また輪番制当番幹事の呼びかけに対し引き受け手が無く、役員・理事が分担することになりました。

当日は、母校から、学

校長遠藤可奈子様、総務部長柴内三幸様、そして同窓会長瓜生祐子様、副会長佐藤貴子様、監事石川映代様、事務局佐藤陽子様をご来賓としてお迎えし、会員51名の参加者を得ての会となりました。東京支部総会に参加してくださったている同窓生は、都内はもとより遠くは岐阜、静岡、栃木、埼玉、千葉、神奈川県と、多方面に及び、再会を喜び、旧交を温め、ふるさとの思い出を語りあう場として脈々と続いております。例年通りに議事、



懇親会と進められ、今年のアトラクションは櫻村信子様(南高9回生)の新舞踊、松田文男様(花北高卒・花巻人会)のジャズ演奏を楽しみ、歌唱指導を受け、和やかなひとときを過ごしました。

平成28年度の総会は4月10日を予定しております。上野公園での再会を楽しみにお待ちしております。

盛岡支部

支部長

堤 世知子

(南高2回生)

平成27年度の盛岡支部総会懇親会は、10月25日(日)午前11時より、志家町のサンセール盛岡を



会場に開催されました。来賓として、母校から遠藤可奈子校長先生、事務局佐藤陽子先生、同窓会長瓜生祐子様、副会長佐藤貴子様、監事石川映代様をお迎えし、高女29回から南高21回生までの参加で始まりました。

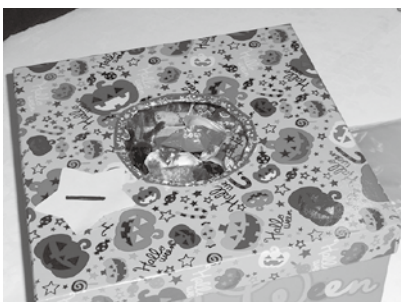
校長先生から在校生の進学、就職等進路について聞きました。また、部活動についても文化系、体育系ともに、優秀な成果が出ていることなどのお話をお聞きし、自分の高校時代が懐しく思い出されるのでした。総会の後の食事では、各テーブルは同級生との会話でにぎやかでした。

懇親会の当番幹事19回生の8人は、おそろいの



ピンクのTシャツ姿で、若々しくはなやかで、細やかな気くばりで会を盛り上げて下さいました。

余興は、南高7回生内藤さんの新舞踊、湯島の白梅のあでやかな踊り、南高10回生黒川さんと10回生有志によるハワイアンフラ、「アロハ・オエ」。ステージの踊りの後、恒例になった全員へのフラダンス指導、腰、腕のしなやかな動きに苦勞しました。南高2回生の堤の太極拳で一休みし、南高8回生の吉田さんの指導による軽体操。靴を脱いでもいいように、下敷の紙まで用意していただき、足も使い、手指を使っていると、体だけでなく頭も使って、ボケ防止にピツ



はしゃぎました。全員で同窓会音頭を踊り、南高7回生中村さんのピアノ伴奏で校歌を斉唱し、来年10月30日、このサンセールでの再会を楽しみにおひらきになりました。例年、100名近い参加者のある盛岡支部ですが、これからも続けていくには、若い世代にどのように呼びかけていくの

か、いつも話題になりま
す。なにかいいアイデア
は……。

私たち 花の19回生

盛岡支部 当番幹事

沢里 妙子

(南高19回生)

「ピンクのポロシャツに
身を包んだ8名が女子高
生の気持ちに帰って乙女
心を掘り起こしながら無
い知恵を絞って運営して
まいります」とはじまっ
た懇親会はいかがでした
か？

工夫を重ねた菓は乙女
心を揺さぶってくれまし
たか。ハッピータイムの
「トリックオアトリート」
はがっちりとお菓子を掴
み取りお楽しみいただけ
たでしょうか。

アイデア一杯の真理
ちゃん、司会の和佳ちゃ
ん、受付・会計の淑ちゃ
ん、小夜ちゃん、良ちゃ
ん、買い出しの君ちゃん、
淑ちゃん。みんな一人三
役以上に頑張ったよね。
私は途中介護等で脱落し

そうになりましたが、皆
のフォローで参加でき
ても感謝しています。

元気一杯の諸先輩方
を見習って「私たちも80歳、
90歳まで出席したいね。」
と話し合っています。同
級生と話していると女子
高生の気持ちに戻って若
返りますよ。皆さんも誘
い合って同窓会に参加し
ましょう。

北上支部

副支部長

市橋 博

(昭和38年卒)

平成27年11月11日(水)
午前11時から1時間程、
新築移転した花巻南高校
を見学しました。同窓会
北上支部の安藤支部長様
他6名の役員で訪問しま
した。

当日は快晴でした。
校門を入り、玄関で佐
藤副校長他皆様のお迎え
を頂き、校長室で今年の
生徒の活躍状況等を伺い
ました。

その後、会議室・屋
内体育館・トレーニング

室・剣道室・第2体育館
等を見学いたしました。

外に出てからは、野球
場・サッカー場・ソフト
ボール場・ハンドボール
場・陸上トラックコース・
テニスコート等も案内し
ていただきました。

全てが利用目的別に配
置されており、広さと設
備の充実さに、ただびっ
くりいたしました。

私達が学んだ校舎は、
木造の校舎で体育館もグ
ランドも決して広いとは
言えませんでした。今日、
見学した学校は、入って
見て、その広さ、明るさ、
設備の充実さに、ただ感
心するのみでした。

また、各教室も見せて
頂きました。各学年から
の情報を早く提供するた
め1階は1年生、2階は
3年生、3階は2年生に
区分しているようです。
なる程とおもいました。

次に、昔は普通科のみ
でしたが、学系制と総合
選択制を取り入れた特色
ある普通高校でした。

具体的には、人文科学、
自然科学学系、スポーツ

健康科学学系、国際科学
学系に力を注いでいるこ
とを知りました。

最後に、卒業生につい
ても、県内外の各方面で
活躍されている様子をお
聞きして、大変うれしく
思われました。見学の後
の帰り道、ある役員の一
人が、母校の充実さを見
て、私達、「もう一度南高
に入って学びたいね」と
言った言葉が、心に残り
ました。

私は、昭和38年3月に
卒業し、仕事を得てから
54年になります。いろい
ろな仕事をし、年を経て
から改めて我が母校につ
いて考える時、学生が社
会から期待される人材に
育つためには、環境・地
域性・設備・そして指導
して下さる教職員の熱意
が必要なのだと思います。
このことについては、

今も昔も同じことではな
いのかと考えております。
個人的にも今の自分を
支えてくれた先輩や多く
の友にただ感謝しており
ます。

学校の見学が終つてか

ら、北上のプランニュー
で、役員会と会食をし
ました。内容は、平成27年
度の総会についてです。

今日一日は、私にとつ
てなつかしく充実した一
日となりました。

ありがとうございました。

石鳥谷支部

支部長

上山 準子

(南高10回生)

この度、石鳥谷支部は
平成27年度10月23日に開き
ました臨時総会をもちまし
て支部を解散し、本部同窓
会に入らせていただきまし
た事を、この面をお借りい
たしまして、ご報告させて
いただきます。

歴代の支部長様方が、
努力し継続されてきた支
部でございましたが、発
足当初からの会費納入
方法(各地域の連絡員が
それぞれの地域の会員一
人、一人と会って、また
は家族の方より納めてい
ただく)が、男女共学に
なりましてから、また個

人情報保護法が施行され
てから、安易に訪問する
事ができなくなり、連絡
員の方々に大きな負担を
おかけしておりました。

執行部としては申し訳
なく、どの様に考えた
ら良いかと、先輩役員の方
々にお集まりいただき、
き、実情を説明させてい
ただきました。そして今
後の支部の在り方につい
て、ご意見を伺いながら、
話し合いをいたしました
が、新しい組織づくりも、
同窓生が多様化してお
り、簡単な事ではありま
せんでした。

幸いにも石鳥谷町は、
10年前の市町村合併で、
花巻市に合併してしまし
たので、石鳥谷支部を解
散させていただく事に致
しました。

数十年前の支部活動の
中でいろいろな事があつ
たと思いますが、今日ま
で継続できましたのは、
歴代の支部長様方の並々
ならぬご努力の賜物と、
心からの感謝を申し上げ
る次第です。

同窓会本部様をはじ

東和支部

小原 嘉寿子
(南高9回生)

め、各支部様から今日まで賜りました御厚情に、深く深く感謝申し上げますと共に、母校並びに同窓会の益々の御発展を御祈念申し上げます、ご報告に変えさせていただきます。

らい、陸前高田市役所に従姉の死亡届を出しました。その後、親戚4、5人で葬儀をし、同市の光照住職様から戒名をいただきました。花巻社会保険事務所に行き、年金受給者の死亡届を出し、年金を止めてもらう手続きをしました。

に安置されているので確認に行くよう連絡があり、現地に行き400位の柩を見て回りました。身元の判明した柩には花束が置かれていました

明し、大船渡警察署員、陸前高田市役所職員立ち会いの上、平成25年4月25日陸前高田市普門寺に安置されている遺骨を受け取り、両親の眠る墓に納めることができました。自衛隊員、警察署員、裁判所や市役所の職員、司法書士、住職様方等多くの方々のお世話になりました。

東和支部では総会並びに懇親会を隔年に行うことが恒例になっており、平成27年度は、総会を開催しませんでした。四月に役員会を開き今年は特別行事を持たないことに決めました。私事で恐縮ですが……。

その後、日本年金機構から平成23年4月、6月、8月支給になっていない年金の返還を求められました。従姉の両親、兄姉は十数年前に亡くなり相続人がおりません。年金の返還について、花巻家庭裁判所に行き、相談し、従姉の財産管理人の選任の申請の指導を受けました。係官から両親、兄姉の出生から死亡までの戸籍等、関係する書類を取り寄せる様、指導されました。それらの書類で申請書を作っていたいただき、盛岡市在住の司法書士の方が財産管理人に選任され、従姉の年金を返納していただきました。

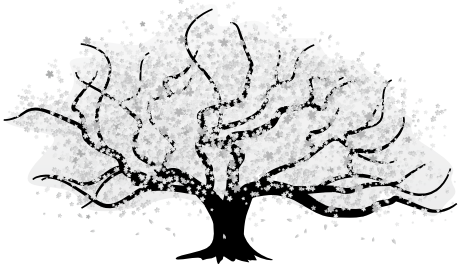
警察からは、沢山の遺体が住田町生涯センターに安置されているので確認に行くよう連絡があり、現地に行き400位の柩を見て回りました。身元の判明した柩には花束が置かれていました

最後にになりましたが、未だに多くの方が行方不明になっており、早く見つけていただき家族の所に帰られるよう、お祈りいたします。

平成23年3月11日、東日本大震災で、陸前高田市に一人暮らしをしている従姉（昭和11年7月11日生）が津波にのまれ行方不明になりました。その届出を花巻警察署にしました。大船渡警察署長から、行方不明で遺体も判らない旨の証明書をも

警察からは、沢山の遺体が住田町生涯センターに安置されているので確認に行くよう連絡があり、現地に行き400位の柩を見て回りました。身元の判明した柩には花束が置かれていました

平成15年従姉からの手紙の切手からDNAが判



平成27年度 同窓会事務局日誌

- 平成27年
 - 4月8日(水) 入学式 本校体育館
 - 4月12日(日) 東京支部総会 上野精養軒
 - 4月15日(水) 会計監査 本校会議室
 - 4月20日(月) 常任理事会 花龍
 - 5月8日(金) 常任理事会(理事会打ち合わせ) 本校会議室A
 - 5月17日(日) 理事会・総会準備会 玉川温泉
 - 7月3日(金) 定期総会打ち合わせ① 佳松園
 - 7月10日(金) 定期総会打ち合わせ② 佳松園
 - 7月12日(日) 定期総会 ホテル千秋閣
 - 10月23日(金) 石鳥谷支部解散
 - 10月25日(日) 盛岡支部総会 サンセール盛岡
 - 11月2日(月) 会報編集委員会 まなび学園
- 平成28年
 - 1月14日(土) 特別理事会 まなび学園
 - 1月18日(月) 会報編集委員会 まなび学園
 - 2月29日(月) 同窓会入会式 本校体育館
 - 3月1日(日) 卒業式 本校体育館
 - 3月1日(日) 会報第33号発行



員稿 役寄

校歌について

監事 石川 映代 (南高6回生)

昨年4月、遠藤可奈子校長先生が就任、間もなく、瓜生会長と役員数名でお会いした際、校長先生のお母様、92歳いわく「貴女、私達の頃岩手県立花巻高等女学校は、白梅(現盛岡二高)に次ぐ、県下2番目の優秀なる学校ですヨ! その伝統と歴史のある校長に就任したからには、しっかりと、務めなさい。」と、言われました。と伺った。

即、私は当時、副会長に就いて居た、瓜生、佐藤(貴)両氏に尋ねたが、詳しいことはわからないが、校歌制定委員にも属していなかったとの事。いざれ百年以上続く、伝統と歴史ある校歌を軽々しく変えて、良かったものなのか……?

つたない原稿にペンを走らせ乍ら、1月10日第1回NHK大河ドラマ、真田丸を見てたら最後の方に上田市街の風景が映し出され、上田高等学校の校歌が流れ、歌詞に耳を傾け、『伝統とは伝えるものなり』この提案、同窓生の皆さんは、どうお考えでしょうか?

旧校歌

作詞 松下 雅雄 作曲 楠美 恩二郎

朝高野の花の下 夕もみじの川堤 裏安らかに手をとりて

学びの道を分くる身のいかで忘れむ 大御言 いかで忘れむ 大御言 梅松桜とりどりの 姿はよしや変わることも 心は固く暖かに

天津日影を仰ぎつつ 御国の栄えと生ひたたむ 御国の栄えと生ひたたむ ここ花巻の学舎の庭 風よ吹け吹け根の健やかさ あめよふれふれ幹の力をためしにためさん吾等が心

新校歌

作詞 校歌制定委員会 作曲 楠美 恩二郎

朝紫紺の山脈に 清新の気の満つるとき 光をあつめる繁る葉を 理想の旗と仰ぎつつ 真の知識求めゆく 真の知識求めゆく 真の知識求めゆく 流れはるけき水明に 久遠の生命思うとき 季節を越えて咲く花を 理想の旗と仰ぎつつ 歴史を創る使命あり 歴史を創る使命あり 歴史を創る使命あり ここ花巻の学びやの庭 風よ吹け吹け根の健やかさ 雨に降れ降れ幹の力をためしにためさん我らが心

員稿 役寄

特別理事会について

副会長 佐藤 貴子 (南高13回生)

104年の伝統を誇る花巻南高校と共に、同窓会の歴史も素晴らしいものがあります。

毎年、7月の第2日曜日を総会の日と決めて行っております。

この同窓会を「若い方々にも多く参加していただくには、どのように進めていったら良いのか」と、去る11月14日、同窓会特別理事会が開催されました。

聞きしながら、話し合いが進められていきました。その中で「各回生の充実を計ることが一番大事ではないか」と言うことが話されました。

それには、「学年理事の方はクラス幹事に声をかけ、幹事はクラスの仲間へ声をかけ、輪を広げて行く様に」と意見をお聞きいただきました。

久しく離れている友に電話をかける勇気が必要なもの。理事の皆様にはご苦労をおかけ致しますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。同窓会総会には、高女の大先輩の方々のお元氣な姿を見るにつけ「あのようになりたいものだ」と、私はいつもパワーをいただいております。

役員紹介、理事さんの自己紹介等で会が始まり、お一人ずつ意見をお

「同窓会の仲間は、年を重ねて行くにつれ、絆が深まっていきますよ」と、

助言をくださいました。若い時はまだまだと思つていても、本当に昔が懐かしく思う時がやって参ります。本部の総会だけではなく、各支部にも参加することが出来ますので、友を思い出し、お誘いしてみてください。戦後70年の年月、花巻南高校同窓会も大きな「絆」の輪を広げて行きたいものと願ひしています。最後に「花南讃歌」を斉唱し閉会いたしました。今後も同窓会に対するお力添えを、よろしくお願ひ致します。



南高63回生 幹事紹介

【学年代表幹事】

1組 小原 美 沙



みんなを呼ぶから了解したら(LIN Eの)スタンプよろしく!

3組 栗石 彩乃



みんなが楽しめる同窓会にしたいと思えます。

4組 阿部 楓果



よりよい同窓会となるように務めたい。

4組 神山 悠亮



歴史ある花南の同窓会幹事になれてとても光栄だ。がんばりたい。

5組 伊藤 優梨



全員が楽しめるよう責任を持つて頑張りたいです。

5組 大山 里歩



卒業してからも仲が変わらず楽しいクラスにしたいです!



2組 近村 菜摘

クラスライン退会しないですね!



3組 阿部 豪

様々な行事に参加しながらがんばっていききたいです。

母校だより

平成27年度 進路合格状況

1 進学受験状況

9割近くの生徒諸君が進学を希望し進学校として躍進しています。推薦入試では、国公立大学から専門学校まで、94名の生徒が受験に挑みました。結果は以下のとおりとなり、昨年同様良い結果を残すことができました。特に、国公立大学の推薦・AO受験は、20名が挑み、6名が合格。国公立大学の推薦合格率は33%でした。また、今年度医療看護系の学校を希望する生徒の推薦受験合格率は72%という結果でした。四年生大

学や医療・看護系専門学校を希望する生徒は例年多く、多くの生徒が受験生として頑張っています。この大晦日と元日を除いた年末年始に研修会館(同窓会館)で予備校主催セミナー試験直前模試や学

習会、特別講習を企画し、正月休み返上での先生方の熱意ある指導によって、受験に向けた万全のバックアップ体制を敷いています。

●主な合格先 (平成28年1月13日現在)

〈国公立大学〉

北見工業大(1) 岩手県立大(4) 宮城大(1)

〈私立大学〉

盛岡大(8) 東北学院大(4) 尚絅学院大(1) 東北芸術工科大(2) 東北公益文科大(2) 拓殖大(2) 二松学舎(1) 千葉工業大(1) 他

〈短期大学〉

岩手県立大盛岡短大(3) 盛岡短大(5) 岩手看護短大(4) 仙台青葉学院短大(1) 他

〈医療系専門学校〉

国立仙台医療センター附属仙台看護助産学校(1) 岩手リハビリテーション学院(2) 県立一関高等看護学院(2) 花巻高等看護専門学校(1) 岩手看護専門

学校(1) 岩手医大医療専門学校(1) 東北文化学園専門学校(1) 安房医療福祉専門学校(1) 中央医療技術専門学校(1) 神奈川県立よこはま看護専門学校(1) 他

〈各種専門学校〉

専大北上保育福祉専門学校(6) 盛岡社会福祉専門学校(2) 盛岡医療福祉専門学校(1) 他

2 就職内定状況

今年度の民間企業就職希望者は、26名で、1月13日時点で、22名が決定しています。残り4名も就職希望先が決定していて準備をすすめている段階です。就職で残っている生徒のうち3名は公務員からまわった生徒です。

景気がよく求人数が多くありましたが、生徒は熱心に面接練習に臨むなど、心がけが立派でした。そのため不採用になった者が少なかったです。特にスポーツ健康学系は、9名全員一発採用でした。部活で鍛えた根性と礼儀が発揮された結果だと思えます。これから

社会人として、それぞれの職場での活躍を期待します。

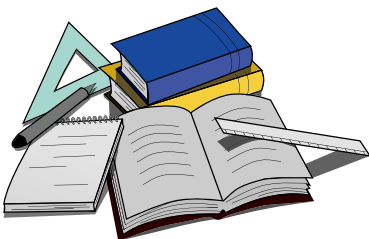
公務員希望は9名ですが、盛岡消防1名のみが合格でした。相変わらずの難関です。それでも3名は一次を突破するなど健闘しました。不合格者の半分は進学し次年度公務員再チャレンジ、残りは就職に回りま

した。

●主な内定先 (平成28年1月13日現在)

花巻農業協同組合(2)、アイオー精密、リコーインダストリアルアソシエイツ、にまいばしミート、ハウディ館、みちのく自動車

売機サービス、パンチ工業北上工場、岩手東芝エレクトロニクス、盛岡消防 他





体操部 (Gymnastics Club)



女子ソフトテニス部 (Girls Soft Tennis Club)

将棋部 (Shogi Club)



部活動の記録 (Record of Club Activities)



野球部 (Baseball Club)



修学旅行 シンガポール (School Trip Singapore)

学校行事の記録 (Record of School Events)



修学旅行 京都・奈良方面 (School Trip Kyoto/Nara Area)



花南祭 (Hanana Matsuri)



体育祭 (Sports Festival)



対面式 (Opposition Ceremony)



避難訓練 (Evacuation Drill)



美術の授業 (Art Class)

国際交流 (海外ホームステイ研修)

昨年度は、韓国コース、ドイツコースそれぞれ8名、10名と多くの生徒を海外派遣することができました。様々なプログラムを通じて、異文化交流を図りました。

1. 韓国コース

派遣期間 平成27年3月22日(日)～3月26日(木)
派遣場所 韓国 安養外国語高等学校
参加生徒 1年3名 2年5名



すぐに友達になりました!



校門前での記念撮影



世界遺産 昌徳宮



伝統衣装体験、ステキです!

2. ドイツコース

派遣期間 平成27年3月14日(土)～3月22日(日)
派遣場所 ドイツ ヴァイアホフ高等学校
参加生徒 1年5名 2年5名



書道と水墨画を披露しました!



ヴァイアホフ高校の新校舎です!



14世紀に作られたハイデルベルク城に遠足に行きました!



カルタ大会を開き、盛り上がりました!

編集後記

高橋 昭三

安全は有史以来、永遠の課題であることは、今更言うを俟たないところです。然して、これを怠ったばかりに、高い代償を支払うことになった事例は数限りなくあります。

- 1、現状把握
- 2、問題点
- 3、改善対策

を的確に実施する危険予知は、災害防止に有効な手法の一つであると思っております。

なお、巷間言うところの「気をつけてやる」は単なる心構えに過ぎず、決して対策とは成り得ませんので念のため。
さる航空会社パイロットの教訓「勇気をもって臆病になる。」は「正に我が意を得たり。」と痛く感じ入っております。

世相混沌たる今日、生来の臆病にますます磨きをかけながら、「日々是好日」と心掛けて参りたいと存じます。

本紙作成に快く原稿依頼に応じて下さった方々に感謝いたしております。 どうも有難うございました。

編集委員長

高橋 昭三 (南2)

編集委員

小瀬川陽子 (南5)

石川 映代 (南6)

佐藤 貴子 (南13)

本館 博子 (南15)

照井 重美 (南16)

葛巻久美子 (南18)

戸来 誠 (南41)

事務局

佐藤 陽子 (南23教諭)

佐藤 一枝 (南42教諭)

